

数学

東京大学 (前期・文科) 1/1

<全体分析>

試験時間	100分	解答問題数	4題
------	------	-------	----

解答形式

全問記述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

昨年出題された確率も完答は難しかったが、(1)の難易度は易しく設定されていた。しかし今年の確率は誘導の分題がなく、ノーヒントである分、難易度が上がったものと思われる。

出題の特徴や昨年との変更点

第1,3問が図形を題材とした「計算問題」、第2,4問が「思考力のテスト」。

その他トピックス

第2問で桁数の問題が出た。この分野の出題は東大・文科では珍しい。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	図形と式 微分法・積分法 式と証明	数学II	円に接する放物線 面積の不等式評価	標準
第2問	指数・対数	数学II	(2)のポイントは、指数の底4と5を10に変えて、かつ 大きい方からの評価を作ること。	標準
第3問	図形と式 三角関数	数学II	(1)では、 \tan を利用することが第1歩。	標準
第4問	確率	数学A	正 n 角形から4点をとって、四角形を作り、内部に外接 円の中心が含まれる確率。余事象を考えて、四角形の 最長辺に注目。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まずは「標準的な手法」を身につけること。それを実行する計算力も大切。また、素朴な図形についての感覚も養いたい。

さらに、場合の数・確率および (今年は出題されなかったが) 整数・数列という分野で、理系の上位レベル問題に立ち向かえる能力があれば、なお心強い。